

田中秀幸

[大崎上島町]



田中秀幸(27歳)

就農：平成28年12月

経営面積：0.6ha(農地中間管理機構活用面積 0.6ha)

生産品目：かんきつ

町とJAの密接な連携による スムーズな農地確保支援

大崎上島町では、従来より基盤整備によるレモン団地の造成に取り組み、担い手への農地集積を推進してきました。

また、新たな担い手を確保するため、呉市にあるJA広島果実連の研修施設広島県果樹農業振興対策センター宮盛農園と連携し、研修生の意向を聴取しながら営農計画の作成や農地確保を支援しています。特に農地確保に当たっては、JA職員が就農希望者の意向に即して農地の出し手の掘り起こしに取り組み、まとまりのある成園を就農前に確保することで、円滑な就農につながっています。



の交流を深めながら技術研鑽し、経営を安定させていく計画です。

農地中間管理事業が 町とJAの取り組みを後押し

将来計画に一步近づく 農地確保

田中さんは、将来、親の経営を引き継ぐため、平成27年8月から平成28年11月(1年4ヶ月)まで広島県果樹農業振興対策センター宮盛農園で研修を受け、基本的な技術を学んだ後、平成28年12月に44a、平成29年10月に16aの成園を、農地中間管理機構を通じて集積しました。

数年後には親の経営を引き継ぎ、ミカンだけでなくレモンを中心に収益増を図るとともに、町内の若手と

農地中間管理機構は町のレモン団地構想を後押しするため、平成28年度からこの地区に地域駐在コーディネータを2名配置し、町職員やJA職員、農業委員とともに出し手の掘り起こし活動を推進してきました。今後さらに農地が遊休化し、貸付希望が増えていく中で、農地を借り受ける担い手の育成が喫緊の課題となっています。

今後、さらなる就農希望者を呼び込むには、研修生等が就農前に農地を確保するなど、研修生の不安を払拭することが重要であり、そのためにも農地中間管理事業の活用が効果的です。